

香川大学教育学部からの出前講座⑦（３年） を実施しました

11月4日、香川大学教育学部から野崎武司先生をお招きし、「**主体的・対話的に学ぶということ**」という題で、教育創造コースの３年生にご講義いただきました。野崎先生のガイドに従い、交通事故志望者数のグラフを最初の題材として「**プチ探究型学習**」を実際にやってみました。

1. ブレインストーミングでウォーミングアップ 2. 「交通事故志望者数の推移の背景にあるものを考える」



「友達に言われて、嬉しい言葉をたくさん挙げる」

1960年代の後半はどんな時期？

(警察庁交通事故白書のグラフを参照)

●グラフから、どのようなことが分かるか？

→高度経済成長の時期に、自家用車の数が飛躍的に増えることで交通死亡事故の数も増えた。

→自家用車の数が増えるなどの変化に応じて、信号機などの交通環境整備が進むことで交通死亡事故を減らすことができた。

➡交通事情の変化に対応して、交通環境を整備していかなければならない！

3. 「現代の交通事情の変化にどのようなものがあるか？」

少し、テーマを絞って考えよう！

→クルマの自動運転技術の発達

➡クルマの自動運転技術とは？

→電動アシスト自転車などの新しい乗り物の登場

➡自転車（減少）、原付（減少）、電動アシスト（増加）

→高齢者ドライバーの増加

➡75歳以上の死亡事故の割合は倍以上（新聞記事より）

→「あおり」運転

➡「あおり」の定義と分析／どうすれば「あおり」運転のない世の中を作れるか、考えて、話し合う。



探究型の学習(Problem-based Learning)

●問題発見、情報収集、編集、課題解決、発信

○編集→思考・判断・表現／整理（集約）

／分析（比較、関連づけ…）

○発信→社会とのリンク／「課題解決」活動

➡自分一人の「見方・考え方」だけで生きていけるか？

➡今まで有効だった「見方・考え方」だけで生きていけるか？

➡自ら関心をもった課題には集中して取り組める。

「やらされる3時間より、自らやる30分」



野崎武司先生、ありがとうございました！